

会 議 録

会議名	令和5年度第2回東浦町社会教育委員会	
開催日時	令和6年3月14日（木） 午後2時から午後4時まで	
開催場所	東浦町文化センター 視聴覚室	
出席者	委員	石原弘幸氏、平井伸幸氏、松下玲子氏、二宮邦子氏、水野智美氏、高崎義幸氏、外山淳子氏、中村六雄氏、南茂憲氏
	事務局	教育部長、生涯学習課長、図書館長、スポーツ課長、生涯学習課課長補佐兼係長、スポーツ課統括課長補佐、文化財係長、生涯学習課主事、生涯学習指導員
欠席者	教育長	
議事	1 令和5年度の取組について 2 ひがしうら地域クラブについて 3 その他	
傍聴者の数	なし	
審議内容		
<p>◆あいさつ 委員長 教育部長</p> <p>以降は委員長が議事を取り回す。</p> <p>◇委員長 次第に従い、議事を進める。議事1「令和5年度の取組」について事務局からの説明を生涯学習課、スポーツ課の順に求める。</p> <p>◆事務局 ○生涯学習課の取組について、配付資料に基づき説明。 〈文化センターのポイント〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上半期については、夏休みを中心に、子ども向け講座や親子講座を開催した。また、マイプロデュース講座の応募が盛況であり、多種多様な講座開催となった。 ・下半期については、定員の半数に満たず実施できなかった講座もあったが、新規講座の開催やマイプロデュース講座を開催することができた。 ・「東浦ミュージックフェスティバル」は、プレイベントも盛況であった。青少年の育成や社会参加活動に有効であった。 ・「うの花音楽祭」も盛況であった。充実した内容になっていた。 ・「二十歳のつどい」は、20名の実行委員が真摯に取り組み、出身中学校の垣根を超えて協力して準備を進めてくれた。責任感の芽生えや達成感を味わってもらえたと考えている。 		

〈文化財・資料館のポイント〉

- ・今年度は、大河ドラマ「どうする家康」にちなんだ内容で講座やイベントを開催した。
- ・「ふるさと講座～もっと知ろう ふるさと HIGASHIURA～」は、ガイドボランティア養成講座として毎年開催している。しかし、最近は、新規の受講者が少なくなっており、ガイドボランティアの新規登録者も少なくなっているのが課題である。
- ・イベントとしては、春と秋の企画展とミニ企画展を3回開催した。春の企画展では、大河ドラマにちなみ「於大」の方をテーマに実施し、3,898人の入館者があった。また、8月11日から20日間、「どうする家康」出演者の等身大のパネルを展示した「どうする家康パネル展」を開催した。ふだん資料館に来られないような家族連れや若い方の来館が多くあった。秋の企画展は、東浦の各地区で引き回される実物の屋形を展示した。さらに、屋形の幕や飾り馬の道具などの装飾品も展示した。2,667人の入館者があった。

〈中央図書館のポイント〉

- ・読書感想文対策講座は、本の選び方、書き方、相談と3段階に分けて指導を行った。いずれの講座も定員を満了することはなかったが、参加者は熱心な姿勢で受講していた。2024年も開催する予定であり、本の選び方講座の対象を中学年に絞る予定である。
- ・事業・イベントの「プログラミングワークショップ」は、ロボットを動かしたり、言葉を発生させたりする命令文の内容であった。2024年度は、電子絵本を作る講座を開催する予定である。
- ・後期のイベントのメインは、「よむらび文化祭」の4つのイベントである。「よむらびポイントキャンペーン」、「よむらびコンサート」、「ハッピーハロウィン！ 仮装おはなし会」、「作家 越尾圭さんからの挑戦状～犯人はだれだ！？～」はどれも好評であった。娯楽としての図書館の地位が低下してきており、なかなか貸出冊数が伸びない時代といわれるが、東浦町に図書館があることにより、町民の自立を助け、生活を豊かにするイベントをこれからも続けていきたい。

〈中央図書館の補足説明〉

- ・現在、小中学生一人ひとりがタブレットを使用している。そのタブレットで、中央図書館が用意している電子図書館を利用してもらえるような環境が1月末に整っている。それぞれの学校で、朝の読書や授業で使ってもらえるようになり、令和4年4月から導入していた電子図書館の利用率が前年比2000%程の伸びであった。

◇委員長

事務局（生涯学習課）の説明を受けて、委員の意見を募る。

◇委員長

電子図書館の使い方や中身はどうなっているのか教えてほしい。

◆事務局

「よむらび電子図書館」という名称で、図書館のHPからアクセスできるようになっている。中身は、図書館にある辞典類から郷土資料、読み物などを本と同じようにパソコンやスマホから読むことができるようになっている。紙の本と違うところは、

文字を大きくしたり小さくしたりできる。また、読み上げてくれることもできる。さらに、図鑑だと、動物が実際に動いて動物の特徴を表現することもできるなど、電子図書ならではの情報を取り出せる仕組みになっている。使い方については、図書館の利用者カードを持っている方は、IDとパスワードを照会できるので窓口にお問い合わせほしい。

◇委員長

どれぐらいのものが読めるのか。

◆事務局

約1,600冊の本を見ていただくことができる。さらに、東浦のガイドマップや小学校で使用している社会科の副読本、読書感想文や感想画の作品、広報や雑誌も見ることができる。コロナ禍で図書館に行けないけれども本が読みたいというところから需要が高まってきたシステムであるが、今年の1月にかけて小中学校にも広めることができた状況である。

◇委員長

本屋大賞や芥川賞の作品も読めるのか。

◆事務局

電子図書館で読むことができるかどうかは作家の判断に委ねられている。芥川賞や直木賞の作品が全て読めるわけではない。

◇委員

様々な講座が行われていてうれしいことである。定員に満たないまでも、結構な人が集まっている。参加者の募集はどのように行われているのか。

◆事務局

「広報ひがしうら」に載せたり、HPで案内をしたりしている。また、ポスターやチラシを利用した広報活動も行っている。

◇委員

実際に参加された人は、広報を見ての参加の方が多いのか。

◆事務局

広報を見られた方の参加が多い。

◇委員

先日、自分が参加しているコミュニティの子どもやその家族を対象にしたイベントを行ったが、人が集まらなかった。学校からチラシを配ってもらったが、反応がなかった。広報する手段をたくさんもたないとだめだと話し合っていた。商売をやっているのだから、宣伝をするためにHPやブログなども研究している。先ほどの話で、子どもたちもタブレットが使えるのなら、紙のチラシだけでなく、タブレットへの告知もできたらと思った。

◆事務局

文化センターで行っている講座は、アンケートを採っている。「この講座を何で知

りましたか」という項目は、8割、9割が広報と回答している。ただ、広報は全戸配布していないので、全員の方にお知らせするにはどうすれば良いか、日々悩んでいる。また、学校では保護者宛の連絡は、学校連絡アプリ tetoru を使ってタブレットで行っているため、講座のお知らせを依頼することもある。

◇委員長

講座は、「まなびの森」にも出ているか。それを見れば、コミュニティセンターの講座も概要が分かるか。

◆事務局

この冊子を見れば町のイベントが分かることを目指して作成している。

◇委員

よむらび電子図書館は良い取組をされていると思っている。出版社と契約されているのか、独自で電子化したものを活用しているのか。

◆事務局

よむらび電子図書館については、図書館流通センターと大日本印刷で共同開発した電子図書館システムを使っている。図書館の司書が選んだ電子書籍を定期的に購入して増やす形をとっている。

◇委員

サブスクリプションという形ではなく、一冊ずつ電子書籍を購入していくという形ですか。

◆事務局

雑誌については、電子図書館システムを利用してパッケージで購入しているので、読み放題である。最近は、単行本についても読み放題のプランもある。

◇委員

子どもたちが、タブレットである電子書籍に集中しても問題はないということか。

◆事務局

はい。また、そういうコンテンツを増やしていこうと考えている。

◇委員

年間の予算はどれぐらいか。

◆事務局

総額、1年間で320万円強の予算を当てている。そのうち半分ほどを子ども向けコンテンツにと考えて購入している。

◇委員長

生涯学習課へのさらなる意見がないことを確認し、続いてスポーツ課の説明を求める。

◆事務局

○スポーツ課の取組について、配付資料に基づき説明。

〈ポイント〉

- ・前期の講座・教室として、子ども向けの体操教室を年少から小学校1年生までの5教室とキッズダンス教室を行った。体操教室では、器具などを使い楽しみながら運動の基礎を学ぶ教室であった。定員を超えた2教室は抽選を行って実施した。
- ・東浦マラソンを12月17日に実施した。大変風が強い天候であったが、申込者1,380人のうち1,248人の参加があった。昨年に比べて172人の増加であった。内訳として、愛知県内の人々が98%で、そのうちの43%が町民であった。知多半島からの参加者は25%であった。コロナ禍が明けて、参加者が戻ってくる傾向があり、これは近隣市町でも同様であった。19部門中の5部門で、町民の方が1位となっている。また、今年度から、新たにホームタウンパートナーシップ協定を結んだFC刈谷の選手を招いて、ゴール者を迎えてもらったり、お楽しみ抽選会を手伝ってもらったりして、例年以上に大会を盛り上げることができた。

◇委員長

事務局の説明を受けて、委員の意見を募る。

◇委員長

スポーツの指導者関係については、今年度どのような状況だったか。

◆事務局

例年、スポーツ少年団などの指導者養成講習会を年1回実施している。令和5年度については、ひがしうら地域クラブの指導者を募集していたので、その方を対象に年4回実施した。

◇委員長

指導者になる人の年齢制限はあるのか。

◆事務局

年齢制限は特に設けていない。

◇委員長

新しいスポーツのモルックの大会についてである。最初の年は、町民全体に参加を募集し、参加者の中でチームを作って行われた。今年度は、チームで申し込むという形になっていたため参加できなかった。人数が足りない場合について、なんとかならないか。

◆事務局

今年度はチーム申し込みにしたが、当日メンバーが欠席したというような場合の対応はさせてもらった。競技を広めるためには、個人での参加希望についても検討したい。

◇委員長

議事1へのさらなる意見がないことを確認し、審議終了を宣告。

議事2「ひがしうら地域クラブ」についてを議事とし、事務局から説明を求める。

◆事務局

○配付資料に基づき説明。

〈ポイント〉

- ・中学生を取り巻く環境として、少子化による学区での部活動の危機、中学生の生活の多様化や教員の働き方改革による部活動改革の必要性を検討しなければならないところにきている。
- ・部活動とは別に、教育委員会が運営し、地域の方々が指導者になって活動する「ひがしうら地域クラブ」を令和5年9月からスタートした。
- ・活動場所は町内の3中学校で、週1回年間40回程度。土・日で3時間程度の活動。
- ・参加料は、今年度は月額500円であったが、来年度からは1,000円とする。
- ・会員は、どのクラブ活動にも自由に参加することができ、幅広いニーズに応えるクラブを目指している。
- ・現在の会員数は184名。指導者登録数は118名で、92名が活動中。
- ・会員のニーズに応じて活動が拡大している（他地区との練習試合や高校生を招いた交流会）。

◇委員長

事務局の説明を受けて、委員の意見を募る。

◇委員

想像していたよりも入りやすいシステムになっている。活動場所への交通手段は保護者の車以外だと、自転車か町運行バス「う・ら・ら」を利用するしかないと思う。活動時間を確保し、参加しやすいようにするためには、「う・ら・ら」の運行時間なども考慮する必要があると思う。

◆事務局

現在、西部中学校から参加している会員で、「う・ら・ら」を利用している会員がいる。また、2月に行ったアンケート調査の中で、活動しやすい時間に、「う・ら・ら」が運行しているので助かっているという意見があった。

◇委員長

今は、文化系クラブとして吹奏楽クラブが立ち上がっているが、他の文化系クラブ（絵画など）が今後立ち上がっていくことはあるのか。

◆事務局

現在は、吹奏楽クラブの活動を3中学校で行っているが、令和6年度からは総合文化（仮称）の活動を行っていきたいと考えている。文化協会の方に指導者をお願いして、絵画、書道、俳句・写真・歴史などの活動を月替わりや週替わりで行ってはどうかと考えている。これから、文化協会の方と詳細を詰めていくところである。10月ぐらいから活動できたら良いと考えている。

◇委員長

会員登録するときに、どの種目に参加するかを登録するのか。

◆事務局

募集案内ではどこでも参加できるとしているが、運営上の参考にしたいため、どこに参加したいかを入力してもらっている。卓球クラブなどは、最初卓球部からの参加者だけであったが、口コミで卓球部以外の参加者が増えて、最近では卓球部と卓球部以外の会員が半数ずつの割合で参加している日もあった。

◇委員長

議事2へのさらなる意見がないことを確認し、議事終了を宣告。

議事3「その他」について確認する。委員のみなさんが、日ごろの社会教育に関する諸問題や生涯学習に関する思いについて話し合っていきたいと考えている。

◇委員

西部中校区に住んでいる。子どもたちを中央図書館や体育館の催し物に参加させるには保護者の負担がかなり厳しいと他の保護者からも上がっていた。「う・ら・ら」が団地の中にも入ってきてくれて図書館にも通いやすくなったと聞いている。また、「ひがしうら地域クラブ」についても気になっていたが、活発な活動が短期間でなされていることを聞いてうれしく思っている。スポーツクラブに参加している子も多くいるので、スポーツクラブでやっていないものを体験できるようなきっかけになれば良いと思う。今後も活動の幅が広がることを楽しみにしている。

◇委員

私は、NPO法人「森と川スポーツクラブ」の活動をしており、「ひがしうら地域クラブ」と共存している。参加者は、中学生だけでなく、保育園児から80歳代の方までが、人数は少ないけれども活動している。HPを作ったり、募集要項を体育館に置いたり、森岡や緒川の全世帯に配ったりして広報し、活動を進めている。

◇委員

「ひがしうら地域クラブ」の話聞いて、スポーツの機会を作っていただけるのはありがたい。部活動は先生方の負担も大きいと聞いているので、先生方や子どもたちにとっても良い状況で活動してもらいたい。

◇委員

今日の話聞いて、スポーツ課の方々がたいへんな思いをされていることが分かった。また、子どもの減少や職員の働き方改革の一環として、「ひがしうら地域クラブ」が進められているが、中学校の現場からすれば、平日は部活動として活動していくが、土日の活動をどうつなげていくかが今後の課題になってくるのではと思っている。生徒自身のスキルアップへの思いや県大会や全国大会などの各種大会がどうなっていくかも気になる場所である。今後とも、学校現場や保護者などへの情報発信を進めることが大切であると考えている。

◇委員

「ひがしうら地域クラブ」については、部活動の変わり目の時期であり、まだまだ課題があると思っている。区の組織も脱退する人もあり、地域づくりも変わり目であると考えている。

◇委員

「ひがしうら地域クラブ」のことが聞けるのを楽しみにしてきた。事前に配られた

要項に、「スポーツと文化芸術活動」とあるが、文化芸術活動に関する内容がなかったのが残念であった。今後は、子どもたちが文化芸術の世界で羽ばたけるようなお手伝いがしたいと考えている。今の中学生を見ていると芸術に触れてきていない生徒が多いと感じている。このようなことを地域クラブで知らせていけるような機会になると良いと感じた。また、お年寄りにもお孫さんといっしょに芸術に触れ合えるような場を作っていきたい。

◇委員

この社会教育委員会は、最新の学校現場に触れる機会になっている。タブレットの使用や地域クラブなど自分が経験してきた学校とは違っている。この会を通して、学校現場や行政の方々がいかに努力されているかを知ることができている。

◇委員長

委員のみなさんの日ごろのお考えを知ることができたし、また、貴重なご意見も伺うことができた。最後に、令和7年度愛知県社会教育委員連絡協議会東尾張支部研修会での発表に向けた東浦町社会教育委員の経過について、資料に基づき報告し、議事の終了を宣告。

◆事務局

次回の委員会について連絡。次回は、5月に予定。日時は後日連絡。

備 考	なし
-----	----